

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：平成31年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

1 年 齢：調査日前日による満年齢

2 年齢（3区分）別人口

—	年少人口（0～14歳）
—	生産年齢人口（15～64歳）
—	老年人口（65歳以上）

3 年齢構造指数

—	年少人口指数：生産年齢人口に対する年少人口の比率
—	老年人口指数：老年人口の比率
—	従属人口指数：（年少人口＋老年人口）の比率
—	老年化指数：年少人口に対する老年人口の比率

4 性 比：女性100人に対する男性の数

5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢（各歳）} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{（満年齢後の経過月数調整値）}$$

（小数点第3位以下切り捨て）

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、国勢調査による年齢別人口を基礎として推計し、本県が昭和51年から毎年1月1日現在にて実施しているものであり、本報告書に使用しているそれより前の数値は、総務省が大正9年から5年ごとに実施している国勢調査結果（各年10月1日現在）を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成27年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成28年～令和2年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、「人口推計」（総務省統計局）(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>)を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 6 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。
- 8 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」又は「△」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成31年1月1日現在の神奈川県の新人口は、918万1625人(男性457万7523人、女性460万4102人)です。【表1、3、4参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)110万6141人、生産年齢人口(15～64歳)570万4254人、老年人口(65歳以上)228万8304人となり、老年人口が年少人口を118万2163人上回っています。昭和51年1月1日調査(調査開始年)と比較すると、総人口は、275万8791人増加しており、年少人口は53万4288人減少、生産年齢人口は126万6464人増加、老年人口は194万7339人の増加となっています。【図1、表1、11参照】
- (3) 平成30年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は1万8346人増加しており、年少人口は1万898人減少、生産年齢人口は684人増加し、老年人口は2万8560人増加となっています。【図2、表1、6、11参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.1ポイント低下し12.2%(全国値12.2%)、生産年齢人口は0.1ポイント低下し62.7%(同59.6%)、老年人口は0.3ポイント上昇し25.1%(同28.2%)となっており、全国値と比べると、年少人口は同率、生産年齢人口は3.1ポイント高く、老年人口は3.1ポイント低くなっています。
【図3、表1、6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.4、老年人口指数は40.1、従属人口指数は59.5であり、1.7人の生産年齢者で1人の年少者又は高齢者を支えていることとなります。
また、老年化指数は206.9で、前年調査から200を超えています。これは、年少者1人に対し高齢者2.1人の割合となります。
なお、県の値はすべて全国値(年少人口指数20.4、老年人口指数47.3、従属人口指数67.7、老年化指数231.7)より低くなっています。
【図4、表2参照】

年齢（3区分）別人口及び構成比

年齢(3区分)	平成31年		平成30年		増減		全国(平成31年)	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	ポイント	人口(万人)	構成比(%)
総数	9,181,625	-	9,163,279	-	18,346	-	12,632	100.0
年少人口 (0～14歳)	1,106,141	12.2	1,117,039	12.3	△10,898	△0.1	1,538	12.2
生産年齢人口 (15～64歳)	5,704,254	62.7	5,703,570	62.8	684	△0.1	7,532	59.6
老年人口 (65歳以上)	2,288,304	25.1	2,259,744	24.9	28,560	0.3	3,562	28.2

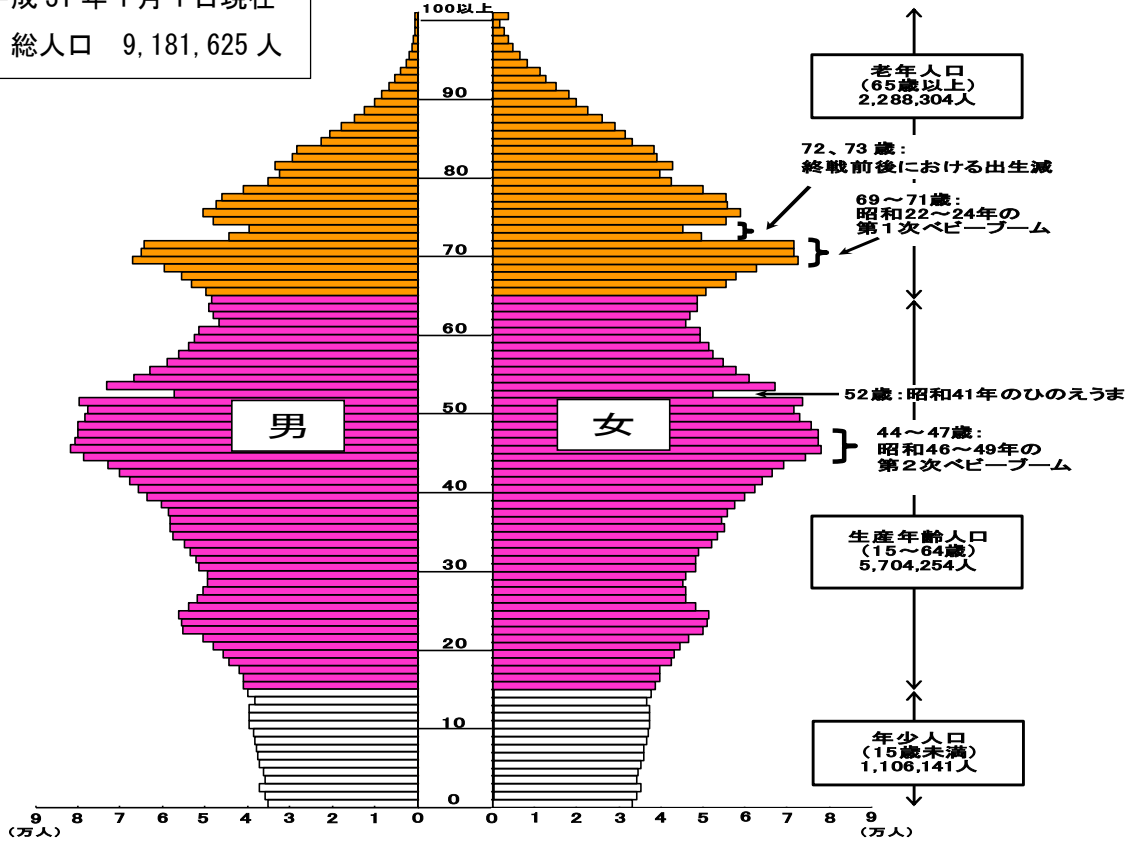
(注) 1 県の人口の総数は、年齢不詳を含むため、内訳と一致しない。構成比は年齢不詳(82,926人)を除いて算出している。

2 ポイントは小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

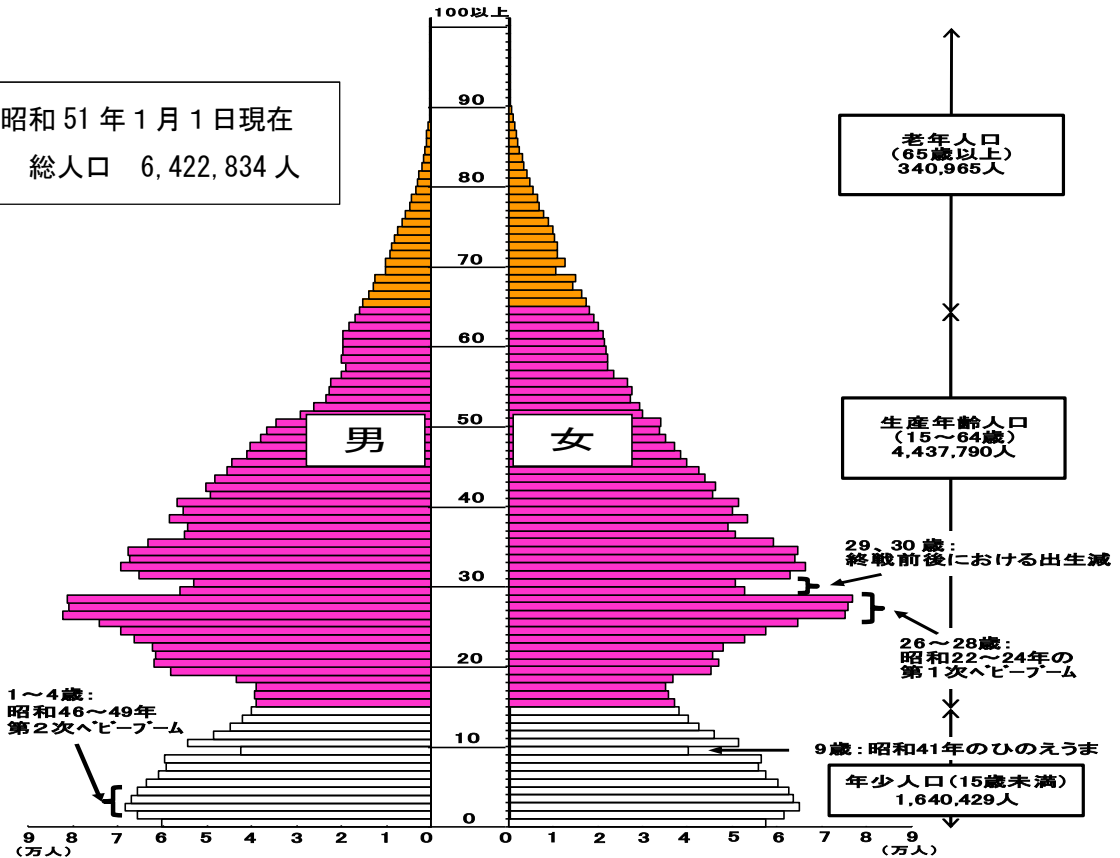
人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉

図1 (昭和51年（神奈川県年齢別人口統計調査開始年）との比較)

平成31年1月1日現在
総人口 9,181,625人

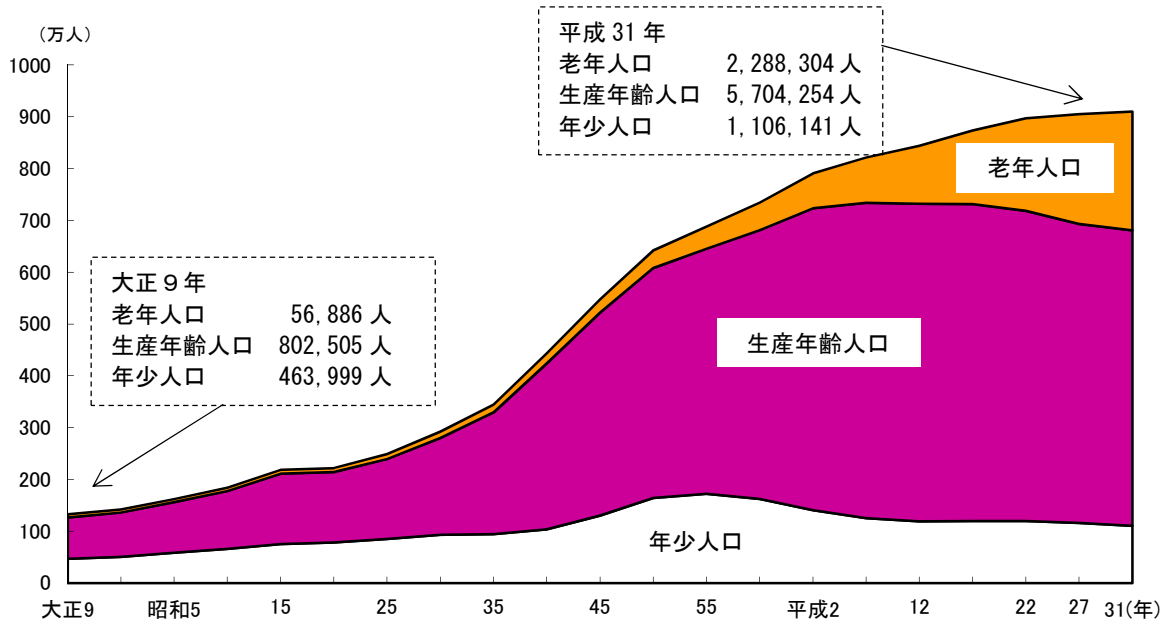


昭和51年1月1日現在
総人口 6,422,834人



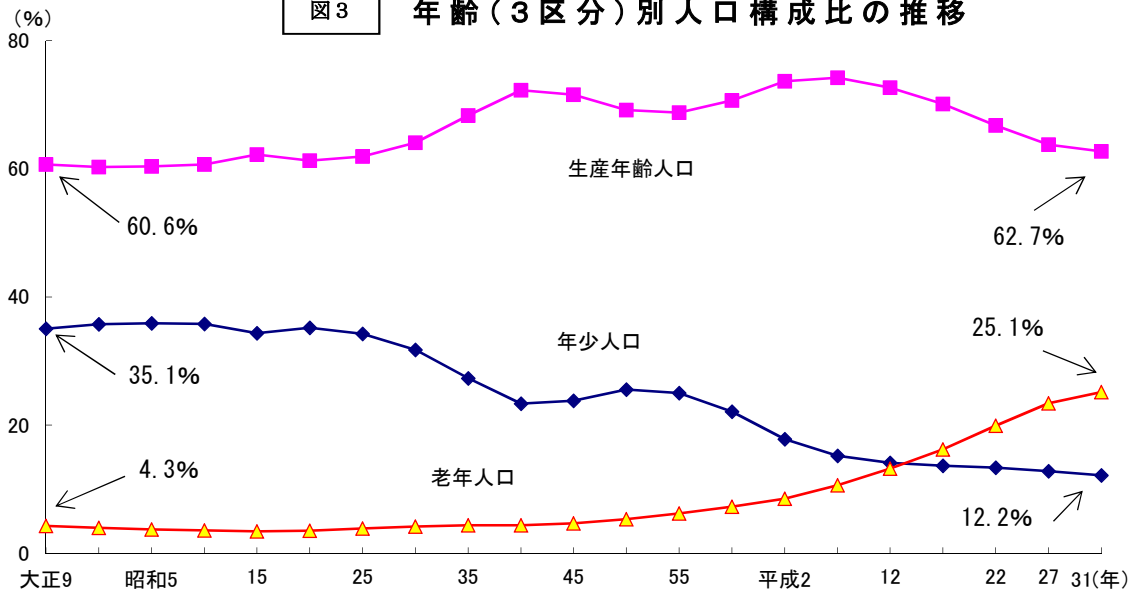
※人口ピラミッドには年齢不詳は含まない。

図2 年齢(3区分)別人口の推移



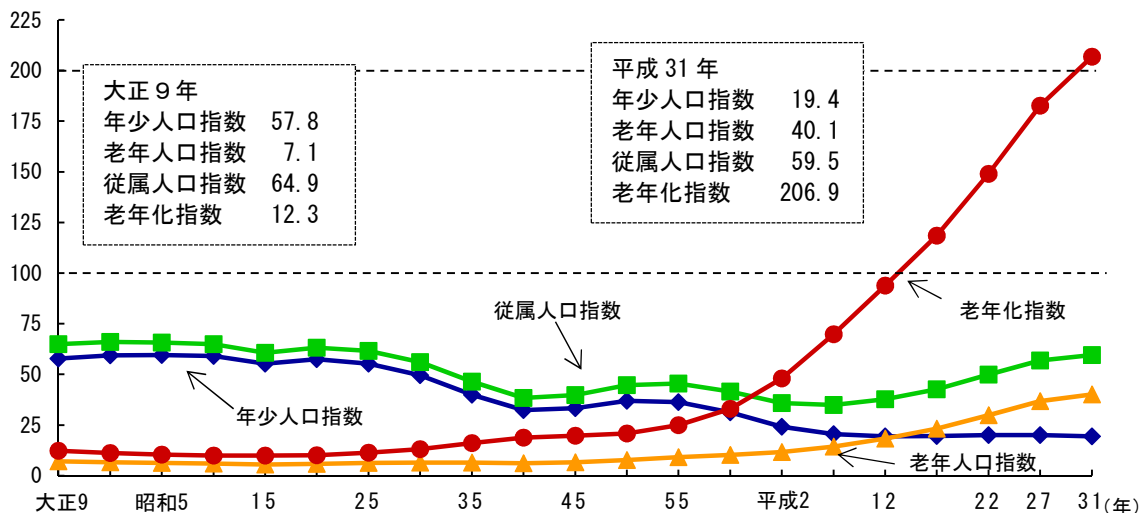
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(以下同じ)。

図3 年齢(3区分)別人口構成比の推移



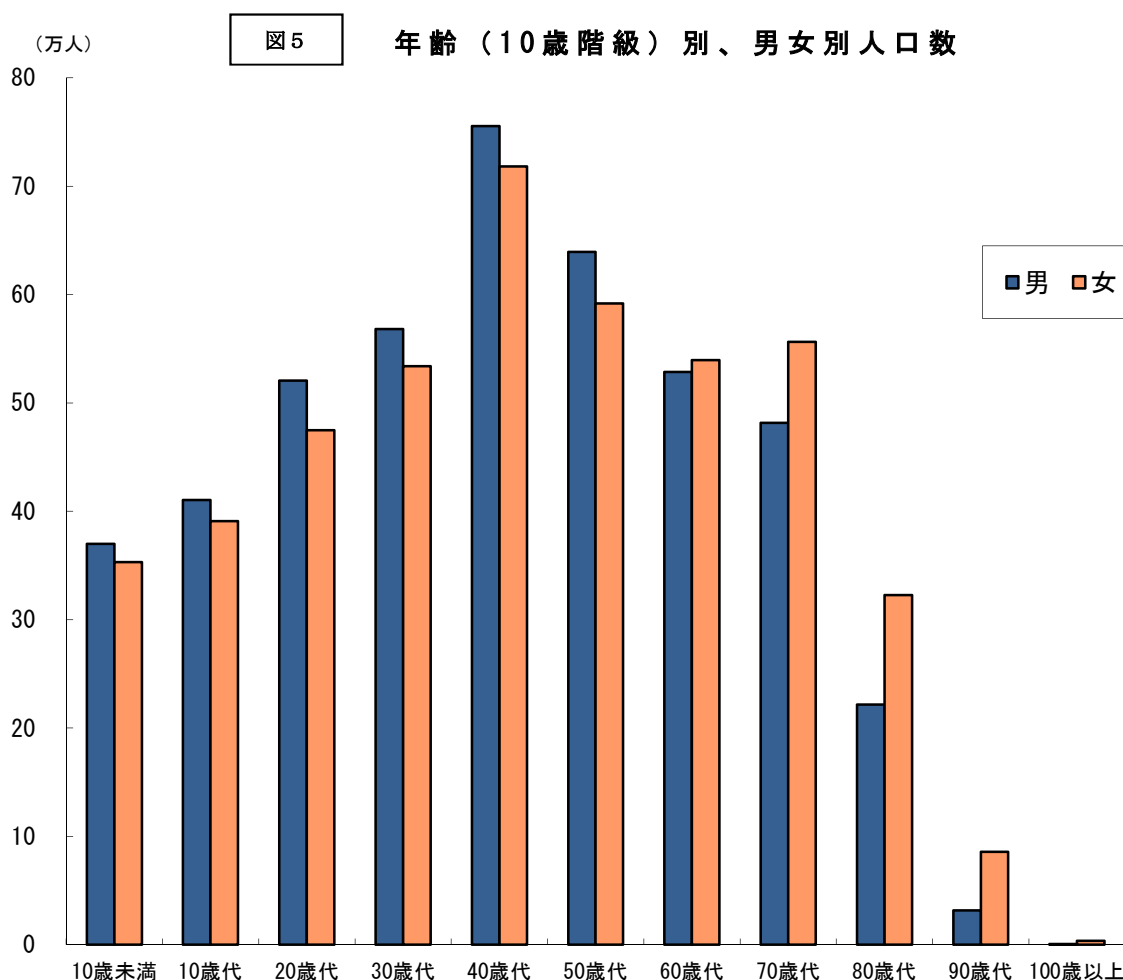
(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。

図4 年齢構造指数の推移



2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が147万3665人（人口構成比16.2%）と最も多く、次いで50歳代の123万1135人（同13.5%）、30歳代の110万2019人（同12.1%）の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、30歳代、40歳代、60歳代の人口は減少し、20歳代、50歳代と70歳代以上の年齢階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が75万5533人（男性に占める割合は16.7%）と最も多く、次いで50歳代の63万9333人（同14.1%）、30歳代の56万8179人（同12.5%）の順となっています。
女性では40歳代が71万8132人（女性に占める割合は15.7%）と最も多く、次いで50歳代の59万1802人（同12.9%）、70歳代の55万6324人（同12.2%）の順となっています。
【図5、表3参照】



3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が457万7523人、女性が460万4102人で、女性が2万6579人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は99.4で、前年調査に比べると0.1ポイント低下していますが、全国値（94.8）と比べると4.6ポイント上回っています。
なお、昭和20年を除き、大正9年から平成26年（100.1）までは100以上でしたが、27年（99.9）から100未満となっています。【図6、表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、0～4歳から60～64歳までは100以上であり、25～29歳が110.4と最も高く、続いて20～24歳が109.0です。一方、65～69歳以上では、100未満であり、65～69歳が95.1で、年齢が高くなるにつれ低くなり、100歳以上が17.4です。
また、神奈川県は全国よりほぼすべての年齢階級で上回り、50～54歳が7.7ポイント（全国値101.1）と最も上回っています（5～9歳、15～19歳は下回る。）。【図7、表4参照】

図6 性比の推移

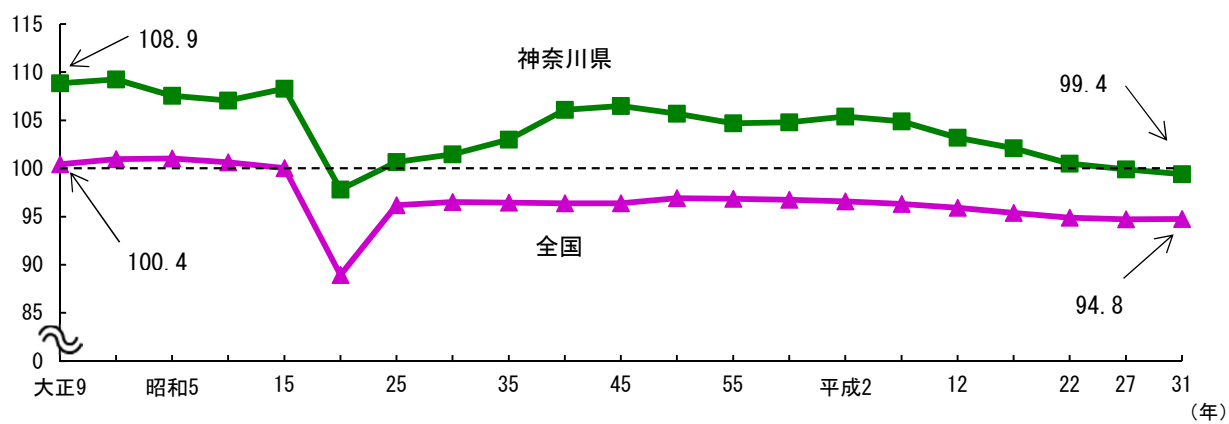
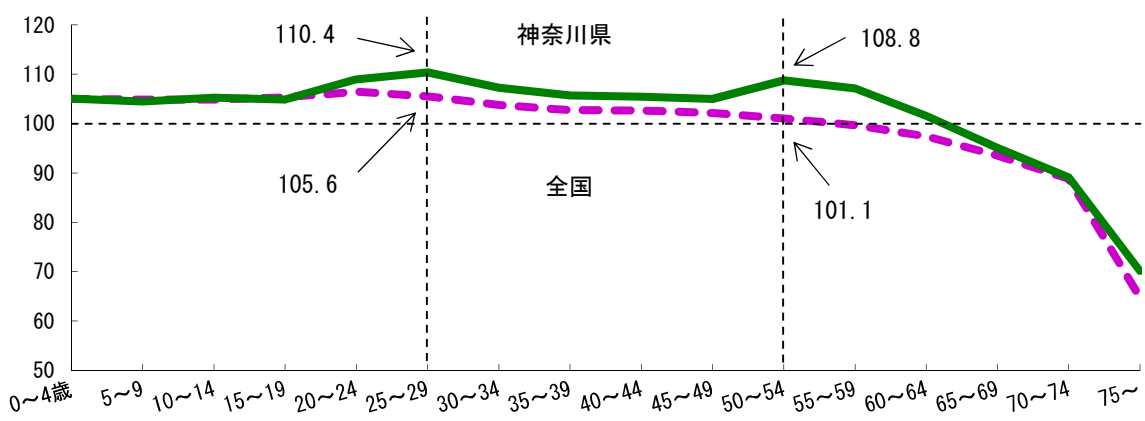


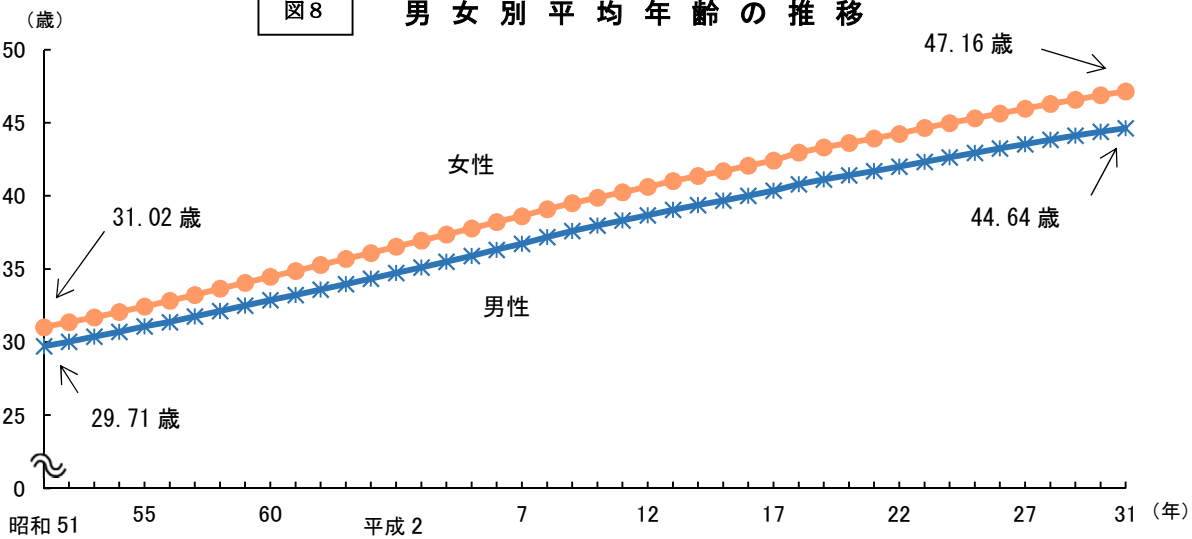
図7 年齢（5歳階級）別性比



4 平均年齢

- (1) 平均年齢は45.91歳で前年調査に比べ0.27歳高くなっています。【表5参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が44.64歳(前回調査に比べ0.25歳上昇)、女性が47.16歳(同0.28歳上昇)で、男女を比べると女性が2.52歳高くなっています。なお、昭和51年(調査開始年)から男女ともに一貫して上昇しています。【図8、表5参照】
- (3) 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で49.38歳、次に県西地域で49.25歳。最も低い地域は川崎市で43.40歳、次に横浜市の45.79歳となっています。
また、市区町村別では真鶴町(55.35歳)が最も高く、中原区(41.01歳)が最も低くなっています。【表7、10参照】

図8 男女別平均年齢の推移



5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 地域別の年齢（3区分）別人口構成比の状況は、年少人口の構成比が最も高い地域は川崎市で12.6%、次に湘南地域で12.5%。最も低い地域は県西地域で10.9%、次に横須賀三浦地域で11.1%です。

また、市区町村別では都筑区（15.6%）が最も高く、箱根町（6.8%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

- (2) 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.2%、次に横浜市で63.3%。最も低い地域は横須賀三浦地域で57.0%、次に県西地域の57.4%となっています。

また、市区町村別では中原区（71.6%）が最も高く、湯河原町（49.9%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

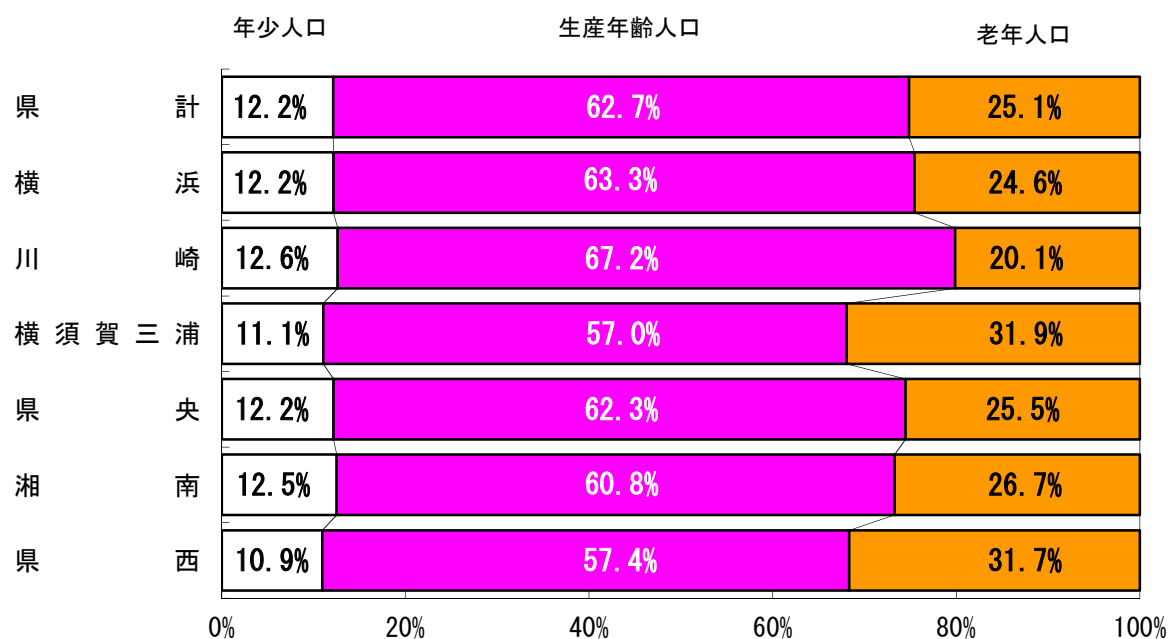
- (3) 老年人口の構成比が最も高い地域は横須賀三浦地域で31.9%、次に県西地域で31.7%。最も低い地域は川崎市で20.1%、次に横浜市で24.6%となっています。

また、市区町村別では湯河原町（42.1%）が最も高く、中原区（15.3%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

図9

地域別、年齢別（3区分）別人口の構成比



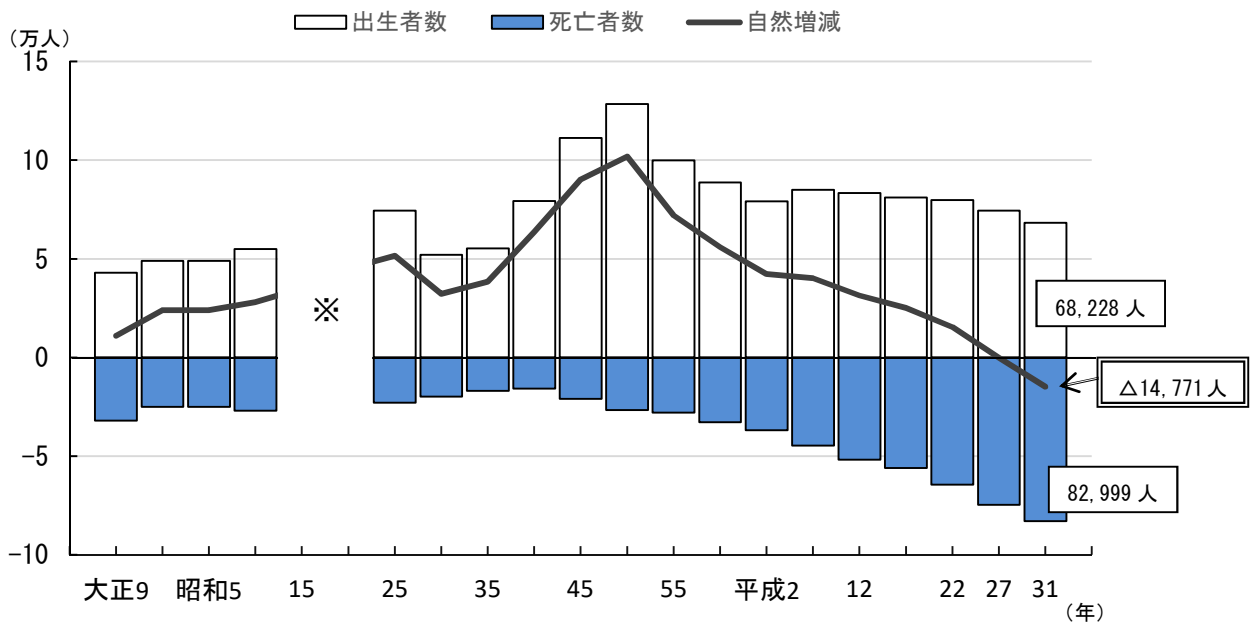
6 年齢別異動人口

- (1) 平成 30 年中の人口増減は 1 万 8346 人増で、その内訳は自然増減が 1 万 4771 人減、社会増減が 3 万 3117 人増となっています。【表 12 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](1 万 4771 人減)は、出生者が 6 万 8228 人、死亡者が 8 万 2999 人となっています。【図 10、表 12 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](3 万 3117 人増)は、転入者*が 50 万 7579 人、転出者*が 47 万 4462 人となっており、年齢 5 歳階級の社会増減は、20～24 歳が 1 万 5549 人増と最も大きく、続いて 15～19 歳が 7352 人増となっています。【表 12 参照】
- (4) 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数は、10 歳未満、60 歳代及び 100 歳以上の年齢階級で転出超過(社会減)となり、その他の年齢階級で転入超過(社会増)となっています。

なお、20 歳代が転入者(18 万 4665 人) 転出者(16 万 4159 人)ともに最も多く、次に 30 歳代が転入者(12 万 2265 人) 転出者(12 万 65 人)ともに多くなっています。【図 11、表 13 参照】

※ 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。

図 10 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※この間の出生・死亡者数は集計がありません。

図 11 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数

